

Minuma Shun Sai

# 見沼・旬彩

2020-21年冬号 vol.16



## 石井実生園「ろうぱい 蟬梅まつり」

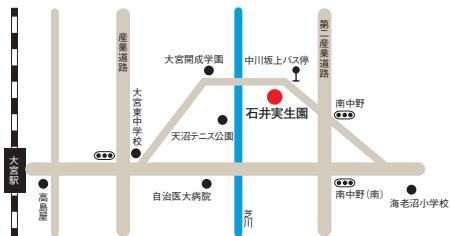
花木の生産農場である石井実生園では、冬の時期になると約300本の蝂梅が園内を黄色く彩り、黄色く彩られた園内には甘い香りが漂い、一足早い春の訪れを告げています。

同園は代表の石井克司さんが「美しく咲いた花をただ散らしてしまうのはもったいない」との想いで、34年前から生産農場を一般に無料開放しています。

蝂梅が見頃となる1月中旬から2月上旬にかけて「蝂梅まつり」が行われます。園内の蝂梅の栽培本数は約1,000本で、うち約300本を蝂梅まつり会場で鑑賞できます。開園時間は10時から16時。入園は無料です。園内では、蝂梅の切枝などを販売しています。



▲石井克司さん



見沼区南中丸75番地 TEL/FAX.048-684-2781

# 上山口新田の「新米」



上山口新田の2020年米づくりは地域の分水さい、草刈からスタートしました。

地域の恒例行事に地域の一員として我々にもお声がかかり参加したというわけ。担当は道路を越えた大宮寄りの地区、この地区もご多分に漏れず耕作放

## 年中無休・市民靈園入口の「染大」直売所

染谷・大谷地区の生産者が、採りたて野菜とお墓参り用の花を毎朝運びます。9時過ぎには朝1番にこここの野菜を買いに来るのを楽しみにしている方で賑わっています。

店内の朝は、いつも地元野菜で溢れていますが、代表の野崎章永さんにうかがうと、春は筍、夏はトマトや生姜、秋には見沼たんぽの新米やずいき(芋茎)等も人気です。

園内には広大な駐車場がいくつもあり、植栽も豊富でお墓参りの他、朝夕散策している方も大勢いて、遠方から車で訪れる人も多いようです。

見沼区大谷600番 TEL.048-686-9447

営業日時:9:00 ~ 17:00 (冬は~ 16:30) 年中無休



## 『冬の小松菜料理』

小松菜&ベーコン&卵で、時短メニューのご案内です。ベーコンからじみ出る油の上に小松菜、卵を割り入れて。蓋をし、火力を少し落として3分程。鉄のフライパンを使えば鉄分補給にも。

様子を見て塩・コショウ、他の野菜等お好みでどうぞ。火を止めて蒸らし時間を有効に活用してください。



▲野崎章永さんと見沼の新米



▲店頭



▲靈園入口から見た店頭



▲地元野菜の数々

棄地が散在し、分水路・排水路等いろんな課題が見受けられ、水路維持の重要性を再確認しました。

このころすでにコロナウィルス非常事態宣言が出され、外出自粛が叫ばれており、農業ボランティアとしてどのように活動するか、考えさせられました。何はともあれ感染防止第一を旨とし、結果として作業参加は“最小限の慣れたメンバー”に限定、とさせていただいたうえ、ソーシャルディスタンス、マスクの順守等を徹底することにしました。

このようにコロナウィルスに振り回され、上山口新田の米づくりを応援する会の方々にもご心配をおかけしましたが、刈り取り機が軟弱地盤で空転する事態以外は特段の問題もなく、収穫することができ、無事、皆さんに新米をお届けできました。

## 2020年度 年末農産物即売会

●日時:2020年12月28日(月) 10:00~14:00(雨天決行)

●場所:さいたま市役所東側ひろば

さいたま市内の青年農業者さんが育てた、正月用の新鮮な農産物の即売会を開催します。人気のある季節の花や、日頃見かけない珍しい農産物など、色とりどりに販売されます。おせち料理での縁起物、さいたま市特産の「くわい」も販売します。また、農家さんが掲げた、のし餅も販売の予定です。



▲昨年の様子



“コロナ”に負けず今年も多数の応募がありました!

## 「私の好きな見沼たんぽ2020」写真コンクール

●主催:さぎ山交流ひろば運営協議会

応募作品126点、そのどれもが「私の好きな見沼たんぽ」の表情に溢れています。優劣の付けがたい、見事な作品ばかりです。そして改めて見沼たんぽの持つ様々な魅力を再認識させてくれます。金賞受賞作品「夕暮れたんぽ」は、作者が四季折々に見沼たんぽをカメラを持って散策、またま加田屋新田で春夕暮れの風景に出会い、丁度通りかかった少年もカメラを向けているのを見て思わずシャッターを切ったとのこと。素晴らしい作品です。

その他、銀賞2作品、銅賞3作品、佳作8作品(表彰式:11月11日)

作品展示:各区役所、さぎ山記念館、大宮第2公園、市民活動サポートセンター、美園コミュニティセンター、見沼天然温泉小春日和、埼玉高速鉄道・浦和美園駅など。

日程、開館時間等は12月から掲載される「見沼たんぽのホームページ」をご覧下さい。

吉田信正



▶銀賞…夕暮れたんぽ  
松岡俊夫



飯村康治

▶銀賞…うわ!大物



## 都市農業の多様性に挑戦

都市化が進むさいたま市緑区で、代々の農地を守り日々奮闘される、若谷真人さんの農業経営についてご紹介いたします。若谷さんの農業経営は①鮮度重視の野菜栽培(ハウス栽培)と、需要と供給が均衡する名産のくわい栽培②農業体験と交流の場を地域住民に提供する体験農園(見沼区片柳)③農作物の直売と組織的な流通販売を併用

直売:クイーンズ伊勢丹(北浦和店)／ヤオコー(浦和パルコ店・まるひろ南浦和店)／JAさいたま木崎グルメ米ランドなど

出荷組合:高畑くわい出荷組合(農家7軒)／全農埼玉を通じて、くわい販売

④さいたまヨーロッパ野菜研究会に所属し13人の若手農家が栽培するヨーロッパ野菜を、レストランを中心販売

⑤野菜ソムリエの資格を取得、生産する作物の情報やレシピ情報を発信

と、5つのフェーズをバランスよく、農業経営に採り入れて生業からの脱皮を図ろうとする、熱気というものが伝わってきました。

地域と共生する都市農業者の今後の活躍を期待しています。

緑区高畑954 若谷真人

TEL.048-878-1049 携帯 090-2213-7794



▲体験農園(見沼区片柳)での指導



若谷真人さんとくわい畑

## みどり直売所



▲開店早々店頭お越しのお客様



▶厚沢純子さん(中央)と直売所のお仲間

さいたま市緑区南部領辻の総持院の門前にある「みどり直売所」を尋ねました。

直売所代表の厚沢純子さんは、この地で農業をはじめ14代目、現在は植木生産と12年前に地域の仲間7人と開設した直売所を行っています。

直売所には開設時から1人増え8人で育てた、新鮮な野菜、果実、米、仏花、花卉など四季折々の商品やバッグ、ベスト、マスクなどの手作り作品が並びます。またファサードには、テーブルと椅子が並び冬にはストーブも用意されています。

厚沢さんをはじめ直売所の女性の皆さんのお人柄か、お客様との会話も弾みいつもフレンドリーな雰囲気が醸し出されたコミュニティとして喜ばれています。

春には直売所や総持院付近の見沼代用水東縁ヘルシーロードの満開の桜、そして花の終わるころの花筏は必見。

また直売所前の見沼たんぼを横切る、メタセコイアの並木道の四季折々の葉色の移ろい(若葉～新緑～紅葉)も、これまた見事。

withコロナの時代。新しい生活様式の一つに見沼たんぼを散策がてら「みどり直売所」を訪れて見てはいかがでしょうか。

緑区南部領辻地内 直売所代表:厚沢純子

TEL.048-878-1350 携帯 080-5690-2046

営業日:毎週土・日曜日(年中) / 営業時間:9:00 ~ 15:00  
(商品がなくなり次第閉店)

## 畑でマルシェとお弁当

さいたま市とその近郊の若手有機農家5人が立ち上げたグループ「さいたま有機都市計画」。11月3日にそのキックオフイベント《畑でマルシェとお弁当》が、代表の「こばと農園」田島友里子さんの緑区新宿の畑で開かれました。

会場にはメンバーそれぞれが育てた有機栽培や自然栽培のとりどりの野菜や米、お菓子やジャムなどが並び、これらを使って作ったお弁当も販売されました。もちろんマスク越しではありますが、作った人と訪れた人の明るい話し声があちこちから聞こえ、マスクの上から見える目が、みなきらきらと楽しそうでした。



有機農業を軸にやれること、やりたいこと全部を、地域に暮らすひとたちと一緒に実現していきたい、というグループのこれからの活動が楽しみです。

メンバー:こばと農園／マーシーズファーム／CHILL OUT FARM／木曾農園／ないとう農園

Instagram Saitama\_yukitoshikeikaku

## 見沼のお店紹介!

## 庭園と季節の料理「花水木」

七里駅から歩いて約10分、周りは畑や点在する住宅の中に佇む雅な料亭です。

四季折々の旬の食材での献立、春は桜、秋は紅葉など主人自ら定休日には庭の手入れをする美しい庭園がここでの食事時間を豊かにしてくれます。食事処はどの部屋からも庭を眺められ、大小の様々な個室があり、テーブル席や掘りごたつの設置など、お客様のニーズに応えてくれます。結婚式や成人式、法事などの利用も多いとか、取材時も紅葉の下、結婚の披露が行われていて、和やかで幸せな様子が庭園の雰囲気とぴったりでした。

秋から冬にかけてwithコロナ応援キャンペーンとして武州和牛を使った献立が始まるとのこと。お正月、ご家族での会食にいかがでしょうか。

見沼区小深作758 TEL.048-682-5311

営業時間:10:30 ~ 20:30 定休日:水曜日

ランチメニュー:お刺身御膳2,000円、花水木御膳2,500円~。懐石コース:7,000円から



◀花水木御膳



## そば処くろむぎ



▲ご主人の高橋勝さん  
とろろ十割蕎麦▶



店内に入ると、和風モダンをテーマに新潟の古民家から集めた古材・備品により趣があり、そして店主自らが手入れされた見事な盆栽も多数展示され、とても落ち着ける風情があります。又、店内にはミニギャラリーがあって盆栽展、陶芸展、絵画展が月替わりで1年先まで展示が予定されています。

毎朝、国産100%の蕎麦の実を自家製粉し、田舎十割蕎麦と二八蕎麦を手打ちしています。十割蕎麦は1日10食限定ですが、両蕎麦とも売切れ仕舞となります。

大和芋は県推奨の特別栽培農産物(堆肥による土壤作りで除草剤など不使用)、ネギは県内産、さつま芋・大根・ゆずも地元農家のものを利用しています。美味しい蕎麦を、ゆったりした空間で味わって下さい。

お店は住宅街にある隠れ家のお蕎麦屋で、七里駅から徒歩20分ほどの住宅街の路地の先にあり、駐車場は10台確保されています。円空仏29体所蔵の薬王寺近くです。ホームページ:「くろむぎWAKWAK」で検索

見沼区島町1112-4 TEL.048-687-9696

営業日時:11:30 ~ 15:00、17:30 ~ 20:00

(夜の部:水・木・金曜日は1組限定完全予約「蕎麦会席」3,500円、但し3名以下5,000円) 定休日:月・火曜日、第3日曜日

## 見沼区御蔵の小熊幸一さん

昨年度まで、さいたま市農業青年協議会の会長を務めていた見沼区御蔵の小熊幸一さん。後を考えて一つ一つの作業をきれいに行うことを心掛けているという広い畑では、これから季節に欠かせないカブ、ホウレン草、小松菜、大根、白菜、ブロッコリー、ニンジン、ネギ、ゴボウに長芋、里芋、ハツ頭等々、たくさんの種類の野菜がすくすくと育っています。栽培には有機肥料を用い、農薬も必要最小限に抑えています。

写真は「ものすけ」という生食用の赤いカブ。切れ目を入れると手でつるりと皮がむけ、白地にうっすらと紅の入った果肉は柔らかで実にジューシー。まさに「ものすけ」と納得の美味しさです。他にもお客様からの要望に応えてレモンなども作っています。販売は右のスーパー、直売所で。



▲小熊幸一さん

クイーンズ伊勢丹北浦和店／ヤオコーまるひろ南浦和店／市民の森農産物直売所／JAさいたま木崎ぐるめ米ランド

## 農業者トレーニングセンター

花植木生産の中心地、本市緑区東南部に位置し、農業振興の拠点施設となることを目的として、昭和51年4月に業務を開始しました。

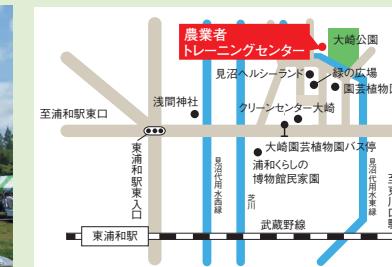
その後、花と緑を通した、農業と市民の交流の場、自然科学の観察の場として昭和53年5月より花き展示温室を中心として園芸植物園を開園しました。

現在、農業者トレーニングセンターでは、花植木生産の拠点として苗木生産の技術指導、省力化、生産物の集出荷体制の整備をはかり農業の振興、農業経営の効率化を目的として諸事業を実施しています。

また、多くの花卉類がある園芸植物園や多目的広場である緑の広場は、多くの市民の憩いの場となっています。アグリフェスタは、農業者と消費者との交流を図り、市民の農業に対する認識を深めることを目



▲アグリフェスタ



## 見沼でアート

## 野良の藝術2021「天空と大地」

2021年1月8日(金)～11日(月・祝日)

コロナ禍の中で順延となってしまっている2020年春の「さいたま国際芸術祭」を引き継いだ芸術活動が、2021年の新春に、見沼たんぽ地域の「二つの地区」で開催されます。

「天地往還(水や炭素)」を基本コンセプトにした講演会やシンポジウムに、燻炭焼き・炭焼、龍神連廻揚げなども含めての多彩な芸術活動です。

詳細なプログラムは、社会芸術ホームページ：  
<https://artngo16.wixsite.com/socialart>に掲載されています。

## 加田屋田んぼでのプログラム

- サブタイトル：「天地往還」
- 主内容1：見沼田んぼから上る「燻炭焼きの煙」と100mの「龍神連廻」の共演
- 会場：加田屋田んぼ
- 主催：社会芸術／ユニット・ウルス
- 共催：社会芸術・寺山支部 炭焼の会、見沼ファーム21



## ファーム・インさぎ山でのプログラム

- サブタイトル：「炭素(C)循環・再生」
- 主内容2：「さぎ山の斜面林での炭焼」公開、及び「見沼田んぼでの燻炭焼き」
- 会場：ファーム・インさぎ山の炭窯
- 主催：社会芸術・寺山支部 炭焼の会
- 共催：社会芸術／ユニット・ウルス

## Information

## 令和3年初詣ツアー「國昌寺」から「氷川女體神社」へ

令和3年1月5日(火)

東浦和駅前広場集合 9:30 解散 12:00

※マスク必着「ディスタンス」を保って少人数で静かに参拝。10名募集

三つの社寺にお参りし、令和3年のご多幸を祈念します。見沼たんぽの新年の晴れやかな空気と歴史・文化、冬の自然に親しんでください。

- コース：東浦和(路線バス移動)総持院→トラスト1号地→國昌寺→氷川女體神社→芝原小(路線バス移動)東浦和
- 参加費：500円
- お申込み：見沼たんぽ地域ガイドクラブ
- 北原ガイド：TEL.090-2675-1684  
FAX.048-834-5731
- メール：minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp



今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域の人と環境にやさしい都市農業の広報誌  
**「見沼・旬彩」2020-21年 冬号 vol.16**

発行: 未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail: [minuma@minuma-miraiisan.jp](mailto:minuma@minuma-miraiisan.jp)

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集: 見沼農業・応援連携部会 / デザイン・印刷: 有限会社アームズ

発行日: 2020年12月5日

We  
Love  
Minuma

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、からの助成金で印刷・発行しております。